

講義科目名: 平和を学ぶ

英文科目名: Study of Peace

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	選択
担当教員			
木永、芝野			
1年次	全学部	週2時間	

講義概要	近年の平和学では、戦争や紛争などの直接的な暴力はもとより、飢餓、貧困、差別、抑圧などの不平等な社会的構造もまた、平和を阻むものと考え。この授業では、このような構造的暴力の具体的な局面を、日本と世界の事例からとりあげ、広い意味での平和について考える視点を身につける。また、戦後の平和学／平和運動の展開において、被爆地としてのヒロシマ・ナガサキは、とりわけ重要な役割を果たしてきた。授業の後半では、長崎という地域に固有の体験から、戦争と平和について考える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 構造的暴力とは何か</p> <p>第3回 豊かさのなかの貧困</p> <p>第4回 子どもの貧困</p> <p>第5回 ナショナリズムと民族問題</p> <p>第6回 日本の植民地支配と過去の清算</p> <p>第7回 日本における排外主義</p> <p>第8回 戦時性暴力</p> <p>第9回 世界における女性への暴力</p> <p>第10回 「戦争」のなかの原爆投下(原爆投下をめぐる諸説)</p> <p>第11回 二発目の意味、どのようにして長崎への投下となったのか</p> <p>第12回 被爆の実相(直接的破壊・残留放射線の影響)と長崎の特徴</p> <p>第13回 長崎の戦後復興と被爆者の「空白の10年」</p> <p>第14回 長崎原爆の記憶と平和の希求</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業形態	講義形式
達成目標	戦争や紛争などの直接的な暴力に加え、飢餓、貧困、差別、抑圧などの不平等な社会的構造との対比における平和という観点へのアプローチを身につける。
評価方法	平常点(授業中に実施する小テストやリアクションペーパー、授業態度)と期末レポート。
評価基準	平常点 40%、期末レポート 60% 優(80~100点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(59点以下)。 ・欠席・遅刻は減点対象とする。 ・授業を妨害する行為は大幅に減点する。
教科書・参考書	授業中に適宜紹介する。
履修条件	特になし。
履修上の注意	初回授業で、講義の進め方や成績評価についての説明をおこなうため、受講希望者は第一回目の授業に必ず出席してください。
予習・復習	事前に配布した資料を読み、授業に臨むこと。予習・復習時間は、授業と同程度を目安とする。
オフィスアワー	授業中に指示する。
備考・メッセージ	特になし。 * JABEE 学習・教育目標(1.5)